スキーと山

第三十六號

大正十二年七月廿七日第三種郵便物認可
大正十三年三月三十一日印刷納本

大正十三年四月一日發行（毎月一回一日發行）

札幌　山とスキーの會　發行

第三十六號目次

記事

卷頭詩　ヨハン・ゲヨーテー　（一）
Stemchristiania and Stemtetemark　平塚直秀　（二）
雪草紙　四　ボースケニーゲル　（一〇）
スキー地圖作製に就いての補遺　大島亮吉　（一四）
彙報抄錄　（一八）
國際スキー競技規定
二三スキー用材の種類に就いて　平塚直秀　（二三）

圖版

フライト（一）　稻積猶　（九）
フライト（二）　同　（一三）

大正十三年四月發行

廣けく　高く　輝ける
ながめ生命を深くもとらふ。
とこしへに山より山へ
心、漂ひ
ミはなる生命、よろこびに滿つ。

——ヨハン・ゲヨーテー——

STEM-CHRISTIANIA と STEM-TELEMARK.

平塚直秀

一、Stem-christiania

V. Caulfeild 氏及び Zarn u. Barblan 兩氏は、これを "Stem-christiania" (又は、Stemm-Kriatiania) と記述して居るが、A. Lunn 氏は、これを "Closed Christistirnia" とし、尙、"Closti" とよく書いて居る樣である。又、Stemturn と Christiania との、コンビネーションと言ふ點から、この二語の音と意味とを兼ねたる、"Stemmiania" とも言ふて居る。Carl J. Luther 氏は又、同氏の著書 "Ski und Skilaufeh" に "Stemmbogen-kristiania" として說明して居る。

私は、"Stem-christiania" を採用して、以下順次に述べる事にします。

(一)アツピヒル、ステム、クリスチヤニヤ

(說明の便宜上右廻轉の場合とす)

A、直滑降からのアツプヒル、ターン (第二圖)

a、正規の直滑降姿勢から、兩膝を少しく曲げ、Lスキーの內側のエツヂを僅か立てゝ、體重をRスキーに託し、緩々にコンバージエントのステムの姿勢に移る (兩スキーの角度は約三十度位) この場合、Rスキーは、たゞ眞直前方に滑るのみで、Lスキーでステムするのである。兩スキーの尖端は出來るだけ密接せしめ上體は、成るべく右方 (內方) に傾けよ。

b、瞬間的に、Rスキーの內側のエツヂを立て、尻を外側 (左側) に振ぢると共に、全體重を外側の足の爪先にのせる。それと同時に、敏速に、RスキーをLスキーに平行にもつて行き、前方に出し重心をLスキーの上に置くと言ふよりも、むしろ、そのテールに置く樣にせよ。

c、兩スキーは殆んど平踏みし、體重を兩スキーにかけ、水平の位置になつたら

エッヂングして止る。

b、c、の動作は連續的のものである。殊に、スピードのない時は、ステム、ターンに於ける樣に、內側の杖を使用して廻轉を促進させよ。(Caulfeild 氏は、練習者によつての、杖の使用は、L. S. T. に於けるよりも、大なる補助となると言ふて居る。)

Zarn u. Barblan 兩氏に依れば、前述の方法とは稍々異なり、全制動（体重を兩スキーに）から、いざ廻轉せんとする時、直ちに体重を外側スキーに託せよと敎へて居る。

（第一圖參照）要するに、前者は、全制動をせずに、すぐ半制動に移り体重を內側から外側に置換して、クリスチャニヤを行つて居るのだし、後者は、全制動を先づやり、然る後、內側スキーに体重を託する事なしに外側スキーにのせて、クリスチャニヤを行ふのである。後者は Lunn 氏及び Caulfeild 氏の言ふ嚴格な意味の、ステム、クリスチャニヤではなくむしろ、ステム、ターンに近いものと思はれる。それ故、後者なら、ステム、ターンをなし得る人ならば、何の苦なく、直ぐ習得する事が出來るだらう。この事に關しては、後述する。

Lunn 氏は、斯樣に述べて居る。

『兩スキーをダウンヒルの方向にむけて、充分にステムしてから、スキーを平行にさせ、踵に体重を託する樣にして、クリスチャニヤで完了する樣にせよ。斯くの如くする時は、初めは、ステム、ターンであるが、クリスチャニヤで廻轉を仕上げる樣な感があるだらう。此の如き、クリスチャニヤで終るダウンヒル、ターンを奇麗に、且つ敏速に行ひ得る樣になると、本來の廻轉方法であるステムの大部分を取除いてやらうと言ふ氣になると思ふ。この爲めには、前述の L. S. T. (Lifted Stem turn) が最もよいと思ふ。この L. S. T. を小範圍で、迅速にそして奇麗に、アップヒル及びダウンヒルの双方のターンが出來る樣に充分に練習して置いて "Cleaft" を初めるがよい。』

即ち、同氏は、L. S. T. をよく練習してから、行へと述べて居る。要するに、ステム、クリスチャニヤは、L. S. T. の變形とも見られる。何となれば、ステム、クリスチャニヤの完了は、L. S. T. のそれと畢竟同じであつて、たゞ第一動に於いて、L. S. T. にては、兩スキーに体重を載せて全制動するに反し、ステム、クリスチャニヤに於いては、一方のスキ

ーに全体重を託して、半制動姿勢となるのである。

（L. S. T. に付いては、本誌第十七號の廣田氏の『L. S. T. に付いて—A. Lunn を參照せられ度い。）

更に、Caulfeild 氏も、ステム、ターンと、ステム、クリスチヤニヤとの區別に付いて、つぎの樣な事を言ふて居る。

『ステム、ターンとステム、クリスチヤニヤとの本質的の差異は、後者に於いては、兩スキーがV字形の位置をとつた時に、決して、兩スキーに同時に体重を載せると言ふ事がないが、前者にては、或る時間に於ては、常に、兩スキーに体重を託すのである。ステム、ターンに於いては、体重の載つた兩スキーが、スノー、ブラオ、ポジションを支配するもので、ターンは適宜に、スキー相互のその反作用に依り生ずるものである。ステム、クリスチヤニヤにては、決して、スキー相互間のステアリング、ブレーキングの作用はない。最初は外側スキーに全く体重をかけず、後急に、それに全体重を移して、内側スキーを既刻に平行にもつて行くので、この場合、兩スキー間のステアリングの反作用は不用である。』

こゝに於いて、もとに立ちかへつて、Zarn u. Barblan 兩氏の要領を持つて來て見る。前にも述べた樣に、明かにLunn 氏や Caulfeild 氏のとは、異なる事を知る。即ち、後者の兩氏の言ふステム、クリスチヤニヤよりも、むしろ矢張り「ステム、ターンに近いものと言ひ得る。

次ぎに、Luther 氏は、滑降から、外側スキーに体重を載せて、それでステムし（内側のスキーでは、ステムせず、体重も載せず）つぎの瞬間に、外側の足の踵に力を入れて、外側スキーのテールを各方に壓する樣にして、後、内側スキーを外側スキーに平行すると記述して居る。この場合に於ては、ステム、ポジションの時の、体重の位置が、他の人と異つて居る。

B、斜滑降からのアップヒル、ターン

要領は、前節の直滑降からの、アップヒル、ターンと、まつたく同樣である。重複するから省略する。

然し、Luther 氏の所謂。ステムボーゲン、クリスチニヤは、この場合は、最も簡單になし得るだらう

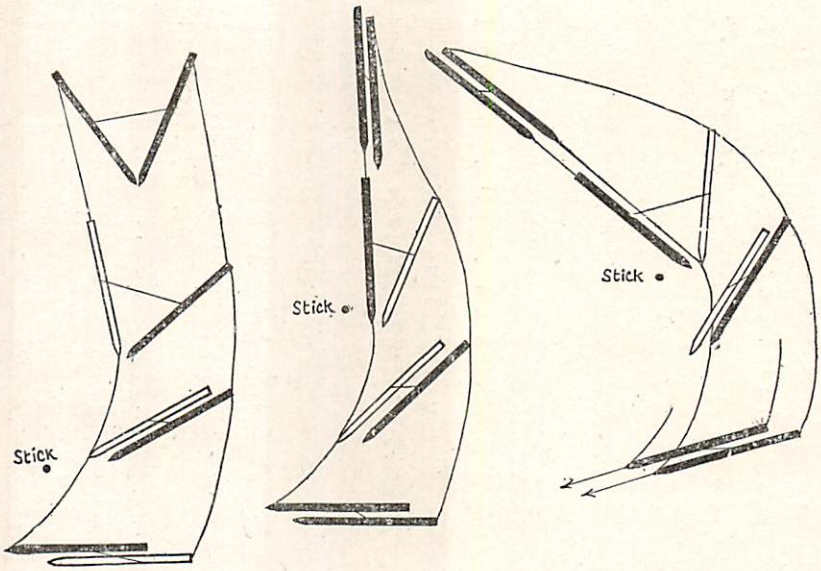

FIG.I.　　FIG.II.　　FIG.III.

（二）ダウンヒル、ステム、クリスチヤニヤ（第三圖）

（斜滑降高のダウンヒル、ターン、右廻轉とする）

a、斜滑降から、Lスキーの体重を抜き、Rスキーに全体を移し、出來得る限り角度を大に、Lスキーのテールを外側に開く。兩スキーの尖端は相接せしめ、兩膝を充分に曲げよ。体を右側にかけ右肩を後方に引け。

b、急激なる、ボディ、スウィングに依り、体重を(L)スキー（外側）に移し、RスキーをLスキーに平行の位置まで運ぶ。

c、兩スキーガ平行になつたならば、体重は、正しく前方即ち、右足の爪先にかけよ。

ダウンヒル、ターンに於いては、アップヒル、ターンよりもより活潑なるボディ、スウイングが必要となる。

ステム、クリスチヤニヤは、ステム、ターンの樣に主として堅雪上に於て、ダウンヒル、ターンに最も有効に用ひられる。又このターンは、良雪に於てなされる他のターンよりも、急峻なスローブでも、スピードの早い時に於ても、奇麗により確實に方向轉換をなし得るものである。

Caulfeild 氏は、重い雪の時の、ステム、クリスチヤニヤ、ダウンヒル、ターンは、スピードがなければ、よく行ふ事が出來ぬ。スロープが急でも、スピードのない斜滑降からの、ステム、クリスチヤニヤは、雪の重い時に於ては、實際不可能である。斯樣なコンディシタンの際のダウンヒル、ターンは、ステム、クリスチヤニヤによく似て居るが、然し、或點は明かに異なれるステツプ、クリスチヤニヤが有効であると說明して居る。

尙、同氏に依れば、三十度又はそれ以上の急峻なスロープでは、ステム、ターンは大層困難であるが、ステム、クリスチヤニヤならば、猶、容易になし得ると言ふ。

山地の堅雪上の滑降中に於けるターンには、最もこのステム、クリスチヤニヤが有効ではなからうか。これに付いての問題は、今後大いに私共が研究すべきであらう。

二、Stem-Telemark

ステム、テレマークも、又實際その名の示す加く、Stem turn ソ Telemark ソの單なるコンビネーションであつて、その意味で "Stemlark" と名付けて居る人もある。

(一)アツプヒル、ステム、テレマーク

(直滑降からの、アツプヒル、ターン、說明の便宜上、左廻轉の場合とす)

a、正規の直滑降から完全なる全制動をなす。スキーの尖端は必ず接近せしめ、体重は兩スキーに均等にあり。

b、廻轉せんとするとき、先づLスキーの体重を拔きRスキーに全体重を移し、Rスキーの內側のエッヂを少しづつ立て、テールに力を入れる。(踵に体重をのせる樣にする)この際、兩膝は出來る限り曲げ、Lスキーは平踏みし、その尖端が右足部に位置する位にせよ。

c、つゞけて、上身を內側に廻はし、尻を谷側に振る樣にして、テマークを完成するのである。

兎に角、ステムミングと、テレマークの出來る人であつたなら、無造作になし得るものである。このターンに關しては、Zarn u. Barblan 兩氏が、その著書 "Skifahrer" に可成り詳細に述べて居る。

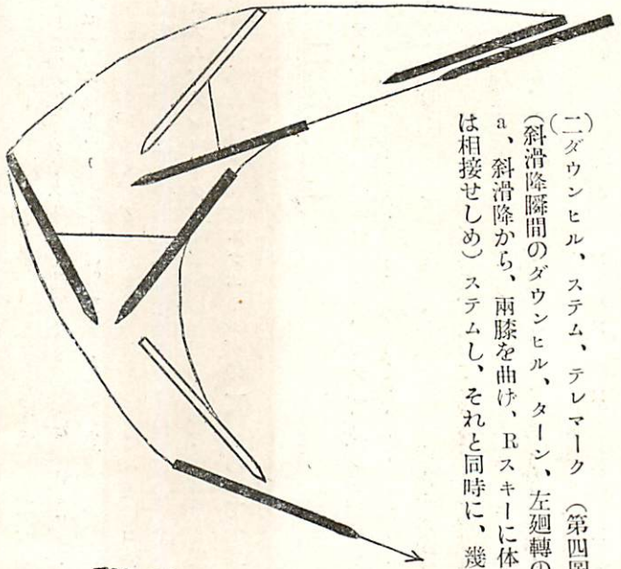

FIG. IV.

(二)ダウンヒル、ステム、テレマーク (第四圖)

(斜滑降瞬間のダウンヒル、ターン、左廻轉の場合)

a、斜滑降から、兩膝を曲げ、Rスキーに体重を載せず、角度を大きくテールを外側に開いて(スキーの尖端は相接せしめ)ステムし、それと同時に、幾分內側のエッヂを立てる。上身は出來得る限り內方(左方)に傾けよ。Lスキーは、尙內側のエッヂを強く立てゝ前方に動く。b、Lスキーを少しく平踏みせしめ、体重を兩スキーに均等に託し、全制動の姿勢に移る。兩脚は殆んど、眞直ぐにし、兩スキーの內側のエッヂを少し立てる。体重は爪先にあり。

c、体重をRスキーに置換し、內側のエッヂを強く立てる。脚はテレマーク姿勢とし、Lスキーの尖端を、右足部に接せしめる位にせよ。

このターンに際しては(アツプヒル、ターンに於ても然り)杖は、使用してならぬ。直滑降からの、ダウンヒル、ターンは(a)の動作を除去したものである。

(a)(b)は全然、ダウンヒル、ステム、ターンに等しい。アツプヒル、ターンと同じ樣に、これも、ダウンヒル、ステム、ターンのなし得る人ならば、何の苦なしに覺えられる。

Caulfeild 氏は、ステム、テレマークをなすに適當なる、雪のコンデツシヨンについて、次ぎの如く述べて居る。

『ステム、テレマークが、適當して居る唯一のコンデツシヨンは、破れがたいクラストの上でゞあつて、こゝに於いてはこのターンのみが、迅速に且つ容易に確實になし得るのである。この樣なクラストに於いてダウンヒル、ステム、テレ

マークを試みるならば、体重を兩スキーにかけて、廣いスノー、ブラウ、ポジションをなして居る間は大丈夫だが、一度体重を内側スキーに移すや否や、それに依つて、内側のスキーを浮かして平行（外側スキーに）にし、外側スキーはクラストを破つて前方に滑り、斯くの如くして、このターンは殆んど自動的に、ステム、テレマークとなる。勿論、この種のクラストに於いては、テレマークに依つても、方向轉換は出來るが、然しこの場合は、"Cutting Telemark"でなければならぬ。然し、カーヴはターンの最初に、スノー、ブラウ、ポジションとなつて制動してなされる時よりも、殆んど鋭くは出來ぬ。尚、鋭く方向轉換するには、ジャムブ、ターンに依つてなされるが、この場合は大抵不可能だらう。何となれば、クラストは、跳躍前までは破れないが、いざ飛ばんとする時、スキーにクラストを壓する特別な壓が作用して、スキーヤーが空中に跳びあがる事が出來ないのである。これ等のコンディションに於ては、ステム、テレマークは特に有効であり、完全である。然し他のすべてのコンディションに於ては、これは信頼する事が出來ないのみでなく出來難く、又はまつたく不可能である。』と。

ステム、テレマークと同じ様な言葉で、Telemarksten又はTelemarkstemming と言ふのがある。時折、これを混同して居る人があるが、これはステムミングの一種であつて全然異なるものである。

三、剰　筆

ステム、クリスチヤニヤと言ひ、ステム、テレマークと言ふものは、皆特殊な雪のコンディションに於いて、有効なのである。山地に於て常に遭遇する堅雪又は、クラストに於いて有効に利用されるターンである。

スキーでの山を目指して居る人々が、山地に於て色々な、コンディションに出遭し、その都度それに最も適應した合理的なターン又は滑降法を考へて、自由にこなして居るや否やと言へば、少くとも私共の目に映じて居る範圍では、未だ〳〵前途がある様に思はれる。この方面のスキー、テクニックの研究は、未だ〳〵豊富である。徒らに、山の數、山の高さを競ふよりも、これ等のテクニックの研究、練磨が第一ではなからうかと私は考へます。

× × × × × ×

フライト　稲積　猶

私は、次ぎの數冊の書籍を參考にして記述しました。その内でも Caulld 氏の "Ski-ing turns" は、私共に最もわかりよく説明を與へて呉れて居るものです。

Lunn, A : Cross Country Skiing. (1920)
〃 : Alpine Skiing at all Heights and Seasons. (1921)
Zarn u. Barblan : Der Skifahrer. (1920)
Caulfeild, V. : Ski-ing Turns. (1922)
〃 : How to Ski. (1921)
Luther, C. J. : Ski und Skilauf.

雪　草　紙

（一九二四、二、一一）

（四）

ポースケニーゲル

◇　このシーズンは雪が尠くポースケニーゲルは甚だ不氣嫌であつた。が降つた雪はいつもの樣に白かつたので此頃の樣にいゝ天氣がつゞくと、やはり地金の色つやが出て從つて云ふべきことをみな云つてしまいたい樣な氣になる。また惡口かとどこやらでさゝやくまでもない。

◇　スポートとしてのスキーが氷の峯をめざして進むべきか、シャンツエの端をめざして進むべきかと云ふことについて色々と說かれる人がある。日本スキー發達史初期十

年間にはアルペンスキーをもつと、上へ上へとひたすら、思を走らした樣であるが、此頃はさうではない。競技が始まつてからはそうではなくなつた。と云つて、はつきりとシャンツエの端をめざしてゐると云ふことも出來ない。今そう云ふ風に歩んでゐる人は極く少數だ。山へも行かず、ジャムブも出來ずと云つた燕麥黨が多い。燕麥は山と畑との間にまがれるから云ふのである。此の種のスキー家は年々これから增して行くことであらう。それは決して惡いことではない。

けれども一年中スキーをやつてゐる——雪のない時には精神的のスキーをやつてゐるものは、そのいづれかに決心せねばならぬ。せずにゐられぬ。スポートとしてのスキーは云ふまでもなく、ジャムブへと歩を運ぶのだ。スキー家はアルピニストの尻馬に乘らなくともいゝ。冬山ばかり登つてアルピニストだと自惚れない用心が肝要である。

◇　アルピニズムスと云ふのは、むしろ一つの思想だ。些々たる技術のみではない。スポーツとしてのスキーが競技へ向つて行くのとはどうしてもかけはなれる。然しこゝでよく、スキーを用ふるアルピニストが考へ違へる。山でのスキーと畑でのスキーとが無關係であると。畑で發達するスキーを山に適用して完成することが大切である。だからアルピニストは常に純粹のスキーに對して充分の信賴と尊敬とを以て對さなければならぬ。

◇　純淨なヘーエンゼーンズフトと、理屈張つた登山技術や、それに附隨するわづらはしい交渉との矛盾にもとづくアルピニストの煩悶とその決心については板さんが短かい筆で明瞭に書いてゐる。

◇　東孝太郎著『趣味のスキー』を讀んだ人があるか。著者その人は眞摯な努力家ではあるが、輕薄な世人があまり感心しすぎたゝめに、彼を誤らしめた。書物の内容は批評の限りではない。著者よ、講演や著作には別にその人がある。君はもつと默つて君のスキーを愛してやればいゝ。

◇　第二回日本スキー選手權大會が高田で行はれた。高田たるもの積年の戀がかなふた樣な、嬉びにむせんだことだ。ところで愈こなつて、あの滑稽皮肉なる悲劇と來てゐる。天氣の神樣も餘計ないたづらをするものだ。大會前後の高田は上氣した娘の樣に泣いたり、笑つたり。それが日本スキーの發祥地だと。名譽に存ずる次第である。競技會に就ては別に云ふ時があらうから、此處ではも少し高田のスキーに就て云はう。

◇　何にもさう聲を大きくしてスキーの發祥地だと云はなくともいゝ。解つてるから靜かにおやすみなさい。眞のスキー家には發祥地なんかどうでもいゝ話だ。どこへもとられない樣に早くレルヒの銅像をたてゝ、安心するが

いゝ。

ほんとうのスキー家はそんなことに拘泥せず、ずんずん前へ進んでゐる。ケヤキ材のアルパイン式をいつまでも使つて、後年の參考にするのも高田としては一興だらうが、それにしてもあの雪が全ての雪だと思つてはいけない。

さる人一日高田に遊んで曰く、高田のスキーはスキーに非ず、ズキーなりと云つた。けだし一面の感じを表してゐる。

ボースケニーゲルも高田では杖にも蠟をぬらねばならぬと思つた。また高田のスキーは北日本のスキーに比して三倍の力（馬鹿力）がゐることを痛感した。雪を友とし、美しき世界に遊ぶと云ふ感じはない。雪を敵とし如何に之と戰ふべきかを考へてやらなければならぬ。やたらに征服とか云ふのも無理はないと思つた。

たゞほんとうのスキーはそんな雪との對立的な關係ではない。融合的な關係にあるのだ。

◇　職業的スキー家の出現は、凡てスポートに於てその普及と共に避けられないことではあるが、よく注意しなければならない。既に明瞭にブルフェッショナルと認むべきスキー家が出來た。アマチュアースキランナーは餘程警戒するの要がある。シーズンが去ればどこで何をしてゐるか解からぬ樣な人が多い。また一般にそれらの人々は單なる巧者であると云ふ點で、地方新聞の煽動に乘つたにすぎぬ。何等の知識も、理論もない輩である。多くのアカデミッシエクルーブが此の種のスキー家を神樣の樣に思つてゐるのは情けない話である。

◇　スキーの競技會も純粹のスキー家ばかりの手でやる覺悟がなければいけない。金が入用だからと云つて役人の御厄介になつてゐるのはあまり感心したことではない。雪の上では役人は用はない。山の中では總裁や會長は手足まどひだ。勿論功利的に云へば利用出來るだけ利用したがいゝ。しかしスキー家はいつまでもたよつてゐるつもりでは何にもならない。役人やブルジョアーに對して幇間的態度をとるスキー家は速かに葬るべきである。

◇　われわれはあくまでフェアーでありたい。つまらぬ野心や慾望にこだはらずに滑りたい。井蛙の觀を棄てよ。世界のスキー界を正視せよ。とボースケニーゲルは大きな事を云ふ奴である。

猫　積　稲　　フライト

スキー地圖作製に就ての補遺

大島亮吉

嘗て本誌上（第二年九五頁）に於てスキー地圖の作製に就て少しばかり書いたことがあつたが、最近またそれに關して參考となるべき新しい材料を知ることを得たので、前に書いたことに對して補遺の意味を以てそれに就いて二三の事項を附加することを許されたいと思ふ。

スキー地圖の作製は要するに、ひとつの地形圖の上に、登山及び旅行に際してのスキーの行路（ルート）の種類及び雪崩地、氷河の裂罅（シュルンド）の位置等を最も適當な記號を以て確實に記入し以てスキーでの登山、旅行をなす者に便宜を與へるためのものであるが故に、その作製に當つての主要の事項は、如何なる記號を以てそれ等のスキー行路、及び雪崩地、裂罅の種類位置を表示したらば最も明白であるかと言ふことゝそれ等の記號の地形圖への記入方法とである。而して前者はたゞ適當な記號を案出することのみで終るが、後者の記入方法に到つては、第一にその記入せらるべき地方の山地のスキーに關してのあらゆる狀態をあらゆる時期に亘つて知悉せることを必要とする。而しこれは必ずしも一人の人のみの所有せる知識でなくてもよいので、多數の人の各部分的の知識を綜合したものでもよいのである。その方法としては故にたゞ永年の經驗を必要とするのみである。それ故この點では記入に對する知識を除いては別に研究はゐらないことである。それ故專ら我々の學ぶべき點は記號そのものにある。

この前に私は主としてグスターフ・ヴァルティ氏の一九

豐富な積雪!!
潤澤な斜面!!
充分の設備!!

五色温泉

山形縣南置賜郡山上村
板谷驛にて下車
宗川旅館

スキー地圖作製に就ての補遺

大島亮吉

嘗て本誌上（第二年九五頁）に於てスキー地圖の作製に就て少しばかり書いたことがあつたが、最近またそれに關して參考となるべき新しい材料を知ることを得たので、前に書いたことに對して補遺の意味を以てそれに就いて二三の事項を附加することを許されたいと思ふ。

スキー地圖の作製は要するに、ひとつの地形圖の上に、登山及び旅行に際してのスキーの行路（ルート）の種類及び雪崩地、氷河の裂罅（シュルンド）の位置等を最も適當な記號を以て確實に記入し以てスキーでの登山、旅行をなす者に便宜を與へるためのものであるが故に、その作製に當つての主要の事項は、如何なる記號を以てそれ等のスキー行路、及び雪崩地、裂罅の種類位置を表示したらば最も明白であるかと言ふことゝそれ等の記號の地形圖への記入方法とである。而して前者はたゞ適當な記號を案出することのみで終るが、後者の記入方法に到つては、第一にその記入せらるべき地方の山地のスキーに關してのあらゆる狀態をあらゆる時期に亘つて知悉せることを必要とする。而しこれは必ずしも一人の人のみの所有せる知識でなくてもよいので、多數の人の各部分的の知識を綜合したものでもよいのである。その方法としては故にたゞ永年の經驗を必要とするのみである。それ故この點では記入に對する知識を除いては別に研究はゐらないことである。それ故專ら我々の學ぶべき點は記號そのものにある。

この前に私は主としてグスターフ・ヴアルティ氏の一九

二〇年に作製したクロスターを中心としてこのシルヴレッター山群のスキー地圖の記號を紹介したのであつた。ところが最近瑞西山岳會年報（Jahrbuch des Schweizer Alpenklub.）の一九二二年度、第五七卷の附錄として、既にその各本誌上で屢々知られたアーノルド・ラン氏と最近本誌上でその飜譯の紹介せられたる瑞西で現在若手の著名な登山家でまたスキー家であるオトーマル・グルトネル氏（Othmar Gurtner）―― 氏は槇さんの話に依ればまた山岳文學の研究でこれから立たんとしてゐる人であるとのことである。とにかく我等は山やスキーに關する諸雜誌で到る處氏の多方面に關する研究を眼にする。ちなみに氏は現に瑞西スキー年報の編輯者である。――との共作になるオーバー・ベルナーラントのスキー地圖が發行された。それをみると、先のヴアルティ氏の記號に比して私にはよりすぐれてゐると思ふ點が二三あるので、それをこゝに補遺として紹介する次第なのである。

その兩氏の共作になるスキー地圖の記號は全部で、六個ある。それを簡單に說明して、符號をも併せて示すと。

(1) ―― 赤色線。常にスキー行路として適するものを示すに用ゆ。（ヴアルティ氏の『主路』と同じ）

(2) …… 赤色斷線。すべての條件が良好の時のみ通過し得る行路。（ヴアルティ氏の『副路』に同じ）

(3) …… 赤色點線。スキーは常にtragenされねばならぬ行路。故にこの行路は時にはスキーをある地點に置いては――例へば目的の山頂にこの行路が到つてゐる場合の如きは――徒步で行かれねばならぬ時もあり、又事情に依つて――例へば峠の頂近くの場合であつて、その峠を越す行程の場合には――スキーを肩に持つか、リュックザックに挾むか、手に抱えるか、或ひは紐をつけて後に曳いてゆくか、そのいづれかに依つて持運ばれねばならぬものである。

(4) …… ―― 赤色の短かき平行線。常に行路の線とは直角に置かれる。スキーデポット（Skidepot―適當なる譯語がなき故、假に『スキー置場』と譯して置く。原語そのまゝを用ひても私はいゝと思ふ）の地點を示す記號。スキーデポットと言ふ所謂スキー登山の術語の一つはすでに私もこれをある飜譯文の中で紹介し（本誌第二年の一頁拙稿『シィロイファーは如何に地圖を見るべきか』參照）また二三私等仲間の紀行文中にも使はれてゐるが、まだ改めてその意義を明白に書いたことがない故この機會にそれを書いて置くことゝする。勿論簡單なことで、すでに一般には充分に理解せられてゐることゝ思つてはゐる。即ち敢へてそれを記せば『スキーデポット

とは、徒歩で行はるゝ登攀とスキーで登降し得る行路とを用ふるスキー登山のひとつの登山法たる結合法 Kombination の場合に於て、そのスキー行路の終りて徒歩での登攀の始まる地點、即ち兩行者の接觸點、即ちスキーを置かねばならぬ地點を云ふのである』と云ふことが出來る。

このスキーデポットの記號の記入に關して當然諸君のある方は一つの疑問を抱かるゝならんと私は思ふ。即ちある地形に於てはそのスキーデポットは天候其他その時々の條件で多少位置は變更せられねばならぬ。それ故地圖上にスキーデポットの記號を記入して置いてもそれは常に確實なる位置を示すものではない。それではそのスキー地圖は絶對の確實性を有するものないとすぐに思はるゝこと〻思ふ。而しこの疑問は若しこの兩氏共作になる記入の方法を地圖上に見れば直ちに解決する。其れはひとつ〳〵現實に地形圖の山頂についての例を求めて說明し得ることで、それを文字で書き表はすのは甚だ私にはむづかしいことではあるが、大体を通じて普遍的に言へば、スキーデポットにはある地形では常に確定してゐて其時々で位置の轉ずるものを來さないものがある。(この理由はどうしてもいち〳〵地圖を見て貰ふより仕方がない。けれどそう云ふことがあり得る地形を諸君には想像出來ること〻思ふ) それ等のものだけを兩氏は二の記號を以て明らかに記入してゐる。そして其時々に依つて位置の轉ずるものは、その範圍は勿論充分な經驗と研究で調べられて解つてゐるから、その範圍だけの行路を第二の記號、即ち良好なる條件の時のみ通過し得るスキーの行路を以つて表示してゐるのである。說明甚だ不完全なれど、その大体の用法はほゞこれで諸君に御了解されはしないかと思ふ。

(5) ——→ 赤色矢印のついた線。これは雪崩の危險ある斜面を示すもので、矢の向いた方向は即ち雪崩雪の落下し來る方向と合致して記入せらるゝものである。この記號はヴアルティ氏のものから見ると甚だ簡單で、それがため少つと思ふと甚だ雪崩地の範圍を表示するに不確實であるがごとくに思はれるが、いろ〳〵と雪崩地の範圍の性質を考へてみると却つてこの記號の方が要傾を得てゐて、登山者、旅行者に對してはより利益ある警告を與ふるものなのである。その理由もまた甚だ文字上では言い表し惡くいものであるが、敢へてそれをなせばこうである。即ち兩氏は曰く、ヴアルティ氏の如く雪崩地を劃然とあの記號の如くに限定してしまうことが出來ればそれはどんなに登山者、旅行者の幸福なことであるか知れない。けれど實にこの雪崩地の範圍を正確に知り得る

ことほど多大な年月と經驗を要するものは少ない。またある條件に依つては如何なる範圍までひとつの雪崩がその我等に對して危險を與ふるかは、これ未だ我等現在の知識の正確に豫測し得ざる所である。あるものは言ふだろう。我等の考へ得る最大の範圍までにそれを擴張して記入せば可ならんと。而しそれではスキー地圖は實際の確實性に欠け、且その地を避くるための努力の無益に費さるゝ部分は益々多くなつて來る。故に最も當を得たるものは、あゝ雪崩地の危險區域の中心を我等が記號を以て示し、その範圍はその時々そこを通過せんとする登山者、旅行者の判斷に待つのみ。依つて我等はこの記號を使用せりと。』私もこの兩氏の言ふ理由を甚だ當を得たものと思ふ。

(6) 〜〜 赤色枝狀線。氷河上の裂罅 (Spalten) の位置を示す。もとより今日までに最もよく冬に於ても知られたるものゝみである。この記號の必要は直接私等現在日本のスキー登山をやつてゐるものには勿論ないものだから說明は簡單にして置く。

以上が記號とその說明である。これ等のものが、彼のヴアルティ氏のものと比して長所のあることは、彼我を比してみれば直ちに了解せらるゝ所であらうと思ふから私は敢へて無益な言を弄しないつもりである。たゞこの兩氏の地圖に就て少し言つてみると、土臺となつてゐる地形圖は矢張りジークフリート・アトラス五万分の一で、その範圍はグリムゼルよりチンゲルパス (Grimsel—Tschingelpass) までである。大山群のスキー地圖としては最初のものである由來アーノルド・ラン氏はベルナー・オーバーラントはその得意の地方であり、またオトマール・グルトネル氏はこのベルナー・オーバーラントの中心にあるラウターブルンネンの人であつてみればまたこの地方は明るいわけで、この地圖はまづ現在では完全に近いものらしい。この地圖が出たつて私等には今の所少しもその地方と關係がないのだから利益はないが、たゞ我々のスキー地圖に對する知識を增して呉れた點だけは大いに有難い。

ある人が私に言つたことがある。『君達はなか〳〵新しい登山の知識は早くとり入れてゐる。けれど實際の登山狀態とはあんまりかけ離れがありすぎると。』私は赤面する。特にこんなスキー地圖のことなどを書くときには尙だ。實際まだ本邦ではスキー登山と冬季登山も始められたばかりで冬季未踏の山は方々にたくさんある。たしかに知識の方がずつと先に走つてゐるかも知れない。私等は一生懸命努力してそれに追つくつもりでゐる。(完)

彙報抄錄

國際スキー競技規定

聯合諸國間に於て許容せらるへき國際的スキー競技は左記規定の下に擧行せらるへきものなり。

一、プログラムの通告

プログラムは主催國に於て作成決定し、爾餘の聯合諸國に對し一月一日以前に之が通知をなすべきものなり。

延期の場合に於ても同樣の方法により通告すべし。通告は文書又は電信を以てなすべし。

通告は競技開催地、出場申込期限及び出場者の送致、並びに須要なる旅行方法及び宿舍をも明かにすべし。

二、出場申込

諸外國よりの申込は全て文書又は有文電信を以て競技開始前尠くも十四日中に提出すべし。出場申込は參加國監督の手を經たるものに限り有効なりとす。

申込は下記事項を記載するを要す。

1　出場競技種目

2　姓名、生年月並びに住所

三、抽　籤

參加者の順列（出發順序）は抽籤により決定す。抽籤の場所及び時日は豫め關係國が代表を以てなし得る樣適當なる時期に於て通告するを要す。

四、アマチユアー

聯合各國は他國の資格規定を尊重す。但し一般に下記の資格規定を適用すべきものなり。

次の如きスキー家はアマチユア競技者と認定せず。

1　報酬の爲に出發し又は出發せしことあるもの

2　競走に於て現金賞を得たるもの

3　名譽賞及び稱號を利用し物質的利得を調達せんと試みたるもの

4　前項規定により無資格者なること明らかなるスキー家と故意に競技をなしたるもの

其他の事項は各國に於て自由に定むべく、その規則は當該國内に於てのみ施行せらるるものなり。

所屬國より前記一―四の規定に抵觸せざるものとして豫め屆出られたる限りに於ては各聯合國競技に際し、アマチユアと見做す。

前記1―4の規定に抵觸し無資格となりたるものも、抵觸後早くも二年を經たる後に於てはアマチユアーの資格を回復す。第二項の無資格は永久的のものなり。

旅費及び滯在費の補償は所屬國より支辨する限りに於て認容す。

五、審判員、測尺員並びに時計員

a、審判員　ジャムプの審判は二―三名の審判員による。審判員は自らジャムパアたるを要す。或は所屬國に於てジャムプ審判員と認められたるものたるべし。審判員の一名は外國人たらざるべからず。

審判員は主催國に於て決定せらる。

b、測尺員　飛躍距離は尠くも二名以上の測尺員により測定せられるべく、右測尺員中の一名は外國人たらざるべからず。

飛躍距離は飛臺尖端より着陸中央迄を二分の一メートル毎に正確に測らるべきものなり。測尺標は（金屬製なるを最良とす）明了なる方法を以て記すべく五メートル毎に特別の記號を示すべし。

測尺員は測尺記錄を決定し、之が正確なることにつき責任を有す。記錄表は審判員に交付すべし。

c、時計員　滑走競走に於ける時間は測時計を有する二名の時計員により決定せらる。

時計員は複合競技に於ける滑走競走の時間を計算し、その記錄表の正確なることにつき責任を有す。

記錄表は審判員に交付すべし。

所要最長時間は競技準備團体幹部に於て決定すべく、之により時間の計算を行ふ。

ジャムプ及び複合競技に參加する競技者の級別は審判員に於て決定す。

適用せらるるアマチユア規定を滿足せざる者は競技に於ける審判員又は役員として認容するを得ず。

競技準備團体は代表團体の要求により、主催團を通じて審判員表を送附せざるべからず。

招待團体よりの旅費及び滯在費の補償は之を認容す。

六、競　技

國際的競技として認めらるるものは

1、複合競走、飛躍と滑走競走とを含む。

2、滑走競走のみ。

3、ジャムプのみ。

4、長距離競走。

七、規　則

a、滑走競走　複合競走に於ける滑走競走に於てはその距離最少一二キロメートル、最大一八キロメートルなるべし。走路は登行、滑降及び平坦地域を必ず同等の割合に有すべし。長き急斜面の登行を避くべし。人工的障碍を作造することを得ず。

實際上の理由よりして出發點と決勝點とは同一地點に置

くべし。如何なる場合に於ても出發點と決勝點とは同一標高たるべし。召集は出發點附近に於て行ふべし。

全ての競走に對し全競技路は霧及び降雪中に於ても識別し得る樣充分に記號を設くべし。方向に疑義を生じ得べき地點には標示を設置するの要あり。

全走路は競技直前に於て充分多數のスキー家により條痕を附し且つ管理すべきものなり。競技準備團体幹部は競走路の整備と充分なる記號の設置につき責を有す。

競技參加者は年齢一八歳以上たるべし。

競技準備團体は自國參加者に對しより高き年齢制限を設くることを得。

參加者は身体診斷の施行を要求さるることあり。

參加者は出發前次項につき調査せらるべし。

1、醫師の診斷を行はるべき時期

2、超走、廻避、妨碍等に關する規定

3、休養所及び救療所

4、走路の狀況特に困難なる地點等

走路は競走開始前、手落ちなく周知せらるべし。

參加者は準備團体の決定せる時間ををいて一人宛出發するものとす。

b、長距離競走　長距離競走は尠くも三〇キロメートル以上最大六〇キロメートルとす。其他の規定は滑走競走に準ず。

參加者年齢は二〇歳以上たるべし。

長距離競走に於ける身体診斷は强制的なり。

長距離競走は複合競走の少くも二日前又は後に行ふべし

長大なる競走を行ふの際には參加者が休憩、飲食により元氣を回復し得べき驛を設置するを要す。

c、飛躍參加年齢は一八歳以上たるべし。

自國スキー家に對し國際的ジャムブ競技出場年齢制限を二〇歳とし、また國際的性質の競走に際し一八—二〇歳の幼年者に對し特別の級を設くる聯合國は、所屬國に於て幼年級と認めらるる外國スキー家が、如上の幼年級に加入することを是認すべきものなり。但し此は特に屆出づべく、二年以上引つゞき幼年級に加入することを許さず。年長者に對する特別級には三二歳以上のもののみ加入し得。

全ての級及び競技に於て年齢算定の限界を一月一日とす

八、競技者の級別

國際的競走又は競技主催國の主要團体の行へる競技に於て既に優賞を得たることある參加者を、特別級となすか否かは競走主催國に於て決定す。

九、採　點

a、滑走競走　滑走競走に於ては單に時間のみを計測す

複合競走に對しては滑走競走點數は次の如くして求む。

優勝者の得點を二〇とし、其他に對しては優勝者全走路滑走所要時間より多きこと四分毎に八分の一點を減じ、最低點を〇とす。

b、長距離競走　長距離競走に於ては所要時間のみを計測し別に採點せず。

c、飛躍　同一級の競技者は同一飛躍場の同一點より出發し少くも二回飛躍を行ふ。全ての飛躍は審判さる。飛躍は二〇より〇に到るまで採點せられ、二〇を以て最優とす

各級の競技に於て最長飛躍距離を二〇點とす。各不倒飛躍は別表により求めらるる所の飛躍點數を得。飛型點數と飛距點數との和の二分の一を以て一飛躍の點數とす。

飛型審判の基準は、身体の保持、スキーの操縱、飛躍諸相に於ける安定度、滑出及び圏外並びにサッツの大膽さ。

着陸斜面は一メートル毎に明諒に記號を設くべし。

國際的競技に供すべき豫定の飛躍場は出來得べくんば、練習に使用せざらしめ、競技の二三日前その競技に參加せざる飛躍者をして吟味せしむるの要あり。

d、複合競技　複合競技にありては滑走競走と飛躍競技との點數の平均を以てその成績順位を定む。

一〇、選手權及び賞

世界選手權及び歐洲選手權は文書とせず。

番組及び文書に於て賞牌の額格を表明するを許さず。

賞牌は價値ある物品、又は賞狀なるものとす。但し現金たるべからず。

賞牌の數は審判員の申出により競技準備團体幹部に於て決定す。

飛躍距離に對する特別賞は良好なる不倒飛躍に對し與へらる。

一一、抗　議

抗議は競技終了後一二時間以内に文書を以て競技幹部に提出するを要す。但し如何なる場合に於ても賞牌授與前たるべし。

幹部は抗議を釋明し自ら賞牌授與前回答をなす。此が決定に對し控訴せんとするときは事件は國際スキー委員會に移さる。その決定は最終とす。

一二、補　則

本規定に明記せられざる事項に就ては競技主催國の裁定により決す。

附　錄

採　點　の　說　明

A、飛躍　（クリスチヤン、アウグスト、フエルト氏による）

審判員はその採點に當つて、特別の注意を以てし、轉倒

せるもの及び良好ならざる飛躍に就て審判するものである。審判員は此の飛躍の採點には体驗的に些少の缺點をも見るのである。

の飛躍丘頂の出發點に於ては飛躍者（シュプリンガー）は二〇點を有してゐる。競技に伴つて生ずる缺點に從つて此から減點せらるるのである。

滑出（アンラウフ）　此の間に於ける身体の保持は個性的なものであるから審判員はあまり多くの點をつけない。大切なことはスキー家的な且つ自然的姿勢である。滑出（アンラウフ）に於ける缺點——就中不安定——は一—二點減ぜられる。滑出（アンラウフ）で轉倒せるものは二〇點を減ず。

飛躍（アウフシュプルング）　飛躍の際の缺點を認定すること、或は何故飛躍者は正當な飛躍（アウフシュプルング）をなし得なかつたか又はなさざりしかの理由を見ることはなかなかむづかしい。

通常の缺點は　a、飛躍者が屈身（アンヤウフ）姿勢をとらず又は弱しかやらないこと。屈姿勢では此のようなものを一般に二點の減點とする。b、あまりに早く屈身姿勢をとり、又はしばしば强すぎること。特に高い丘の場合には恐怖の爲に之をやる。減點約二點。此の二つの缺點は飛躍距離を減ずるものであるから、點數は二重に影響する。前の缺點（全く屈身せざるか又は弱き屈身）は着陸に於て早く屈身すること）は轉倒をもたらすものではない。c、飛躍者が屈身姿勢をとることあまりに遲きもの。減點二點。此の不幸を行ふ飛躍者の多くは故意に之をやるのではない。此の缺點は一般に飛躍に於て悪い安定を惹し、距離を縮減し、又しばしば着陸に於て轉倒する。

空中　此の間に於て缺點は善く見け得られる。例へば a、スキーの偏倚。減點約二點。b、スキー端のあまりに上向となれるもの。減點約三點（不自然で危險である）c 身及脚の保持に於ける種々の缺點。その强さにより一—四點を減ずる。飛躍（アウフシュプルング）に於ける缺點を合せて減點一—七點となり得る。

着陸（アウフシュプルング）　a、着陸瞬間に轉倒せるものは一〇點を減ず。b、着陸後の轉倒。此の場合何點を減ずべきかは、轉倒せる場所、或は1不良なる着陸の結果か又はその繼續なるか2或は優秀なる着陸をなし幾部分（八—一〇メートル）充分に平衡を保ちたる後なるかによつて決る。1の場合には八—一二點、2の場合には四—八點を減ずる。c、着陸の際手が雪面に觸れること。此の缺點はその度により轉倒せるものの如く減點す。

審判員は轉倒せる飛躍者（シュプリンガー）に對し、しばしば寛容なる判定をなすべきことに注意せなければならない。例へば次の缺點を有する飛躍者は、不良なる屈身（アンヤウフ）（減點二點）あまり良好ならざる安定（減點四點）着陸後間もなく轉倒せること

（減點一〇點）により飛型點數四點となる。よく見ても此れでは五點以上よき點を得られない。

シュヴング、シュヴングをやることは飛型點數に少しか又は全く何等影響を及ぼさない。然し審判員はシュヴングまで觀察しなければならない。此れでは最高一點を減ずることが出來る。

B、滑走競走

複合競技に於ける時計員は異れる採點を計算する前に次に例示するが如き方法にて表を作つて置くがいい。

最良時間一時間一二分一五秒

所要時間	點數
時　分	
一、一二、一五—一、一二、二九	二〇、〇〇〇
一、一二、三〇—一、一二、四四	一九、八七五
一、一二、四五—一、一二、五九	一九、七五〇
一、一三、〇〇—一、一二、一四	一九、六二五
一、一三、一五—一、一三、二九	一九、五〇〇
一、一三、三〇—一、一三、四四	一九、三七五
一、一三、四五—一、一三、五九	一九、二五〇
一、一四、〇〇—一、一四、一四	一九、一二五

以下同斷

譯者附言。此の規定は國際スキー委員會（インテルナチヨナーレスキーコミツション）に於て制定せられたもので、最近同會より送附せられたものによつた。此處に譯載したもの丶外に記錄表雛形四と、飛躍距離採點表（シヤンツエルトウング）（二〇點を最高點とす）とがあるが、印刷の都合で略した。權威あるスキー競技規則の制定は現下本邦スキー界の重要なる問題であるからして、讀者が本規定に注目せられん事を望むものである。譯者は特に此の拙譯を世界のスキー競技界の事情を調査するの餘暇なき大日本体育協會スキー部委員諸氏に獻ずるのである。（加納一郎）

二三スキー用材の種類に就いて

平塚直秀

スキー用材 "Asche" (Esche) を『とねりこ』(秦皮)と譯してあるのは大なる誤謬である。"Asche" とは Genus Fraxinus L. (しほぢ屬) の下に包括される種類の總てを言ふので、單に Fraxinus Puvinervis Bl. (とねりこ) を指すのではない。『とねりこ』は本州四國に自生し、本邦の特產である。本邦に產する『しほぢ屬』を擧ぐれば次の如し。

Fraxinus puvinervis, Bl. とねりこ

Fraxinus longicuspis, Sieb. et Zucc. あをだも

Fraxinus mandshurica, Rupr.

var. japonica, Maxim. やちだも

var. Shioji, Kudo. しほじ

これ等はすべて本邦特産のもので『あをだも』『やちだも』は北海道に於ても産す。

特に、歐洲産のものと同屬なりとて、本邦産『とねりこ』と同一視するのは、誤謬である。

又、『あかだも』『おひようだも』を『あをだも』『やちだも』と近縁の類と誤信し、甚だしきは、『とねりこ』と同種のものであるから、スキー用材として良好なり等と斷言せし人もあつたが、前者の Ulmus japonica, Sarg. (あかだも) Ulmus laciniata, Mayr. (おひようだも) は、Ulmaceae (楡科) であるし、後者の即ち、Fraxinus 屬のものは、Oleaceae (木犀科) で、全然科を異にするばかりか、一方は Archichlamydeae (古生花被區)、他は Metachlamydeae (後生花被區) に屬するものである。

最近發行されたる、東孝太郎氏著『趣味のスキー』の三七頁には、――『アッシュ材(秦皮)――中歐に多く産し、ヒッコリー材とも稱し云々』、『トネリコ材(胡桃の類)云々』、『タモ(タマ)――ヤチダモがよく中歐産のトネリコに似て居る云々』――等言ふ事が記述されて居る。

同氏は、矢張り "Asch" を即ち、秦皮 (Fraxinus pavinery ij. Bl. ごねりこ) とし、尚 "Hickory" と同一のものとして居るが、これは大なる謬りであつて、"Hickory" (Carya) は、Juglandaceae (胡桃科) に屬するもので "Asch" とは全然科を異にするのである。『とねりこ』を胡桃の類とせるが如き矛盾も甚だしい。"Asch" を秦皮として居るのも前述の通り誤りなるは勿論である。

次ぎに、特に北海道に於てスキー用材として多く用ひられつゝある『イタヤ材』について調べて見る。平井左門氏の研究に依つても『イタヤ』(Acer pictum, Thunb.) は、スキー用材として最も良好なる結果を得て居るが、歐洲では、これに類似したものを使用して居らぬかと云ふとそうでもない H. Hoek 氏の "Der Schi" に依れば、"Sehr gute Schier werden auch aus Akazie und Ahorn hergestellt; doch trifft man sie noch recht selten." と言ふ事が記述されて居る。即ち、"Ahorn" は Genus Acer (もみぢ屬) を指すので、『イタヤ』もこの屬に入る。歐洲でも、もみぢ屬のものがスキー用材として認められて居る事を知る。Akazie (acacia) は、熱帶産のものである。

遂に雪の時期が參りました。

スキーの御用意は是非當店へ

小樽市稻穂町大通

梅屋運動具店

電話九八六番　振替小樽七〇番